

## 検討の目的

Society 5.0の実現やグローバル展開に向けたICT技術戦略を推進するため、次期科学技術基本計画や国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の次期中長期計画等を見据えつつ、ICT分野で国が重点的に取り組むべき技術課題や社会実装方策等について検討を行う

## 検討項目・論点

- **近年の社会情勢やニーズを踏まえ、国として取り組むべきICT分野の研究開発課題**
  - ・ 進展が著しい技術（AI、脳情報、量子暗号、B5G等）を含めた重点領域の特定
  - ・ 産学官の役割分担を踏まえ国として取り組むべき研究開発分野・課題



### 重点領域ワーキンググループ

- **技術成果の社会実装方策及びオープンイノベーションに対応した研究開発の環境整備等**
  - ・ 社会実装の推進方策、産学連携及びオープンイノベーション体制の在り方
  - ・ 研究開発による社会課題解決に向けた貢献方策
  - ・ 産学連携及びオープンイノベーションに資する研究拠点の在り方
  - ・ 競争的資金を含めた国の研究開発プログラムの在り方



### 共創イノベーションワーキンググループ

### 標準化戦略ワーキンググループ



# 前回(第24回)の主な意見

## 重点領域WG関連

- ◆ 国全体として研究開発投資がしっかりなされていることが重要で、総務省としてどのような位置づけか明確にする必要がある。
- ◆ 昨今自然災害が増えている中でICTの役割は大きい。今回の議論では、サイバー空間での話に寄っており、フィジカル空間のレジリエンスにどう繋げるのかといった視点も必要ではないか。

## 共創イノベーションWG関連

- ◆ E Uでは産官学民の連携がよく言われている。市民も巻き込み、エコシステムの構成を変えなければならないというのがトレンド。従来型の産官学連携で社会課題解決に取り組むというアクションを変えていく必要がある。
- ◆ 大学発のテクノロジーシーズについて、都市部と地域とでは差が大きい。グローバルな視点を持ちつつも、ローカルにコントリビュートできるような技術の活用を考えていく視点が必要。また、技術や特許があつたとしても、現場で動く人材がいないと社会実装が進まない。そういった人材をいかに育てていくかがキーとなる。
- ◆ 技術シーズ型のベンチャーになるとインキュベーションの部分が重要。産官学というステークホルダー同士が連携するだけでなく、エコシステムを作るということを有機的に行い、途中で壁にぶつからないようにベンチャーが息長く育っていくようなファンディングの仕組みを作っていくことが重要。出島化も作ればうまくいくものではなく、人材含め中身を育てていくところを緻密にデザインする必要がある。
- ◆ 全体的にグローバルの視点が弱い。諸外国の技術だけでなく、ニーズとして何が必要とされているのかを調べなければならない。日本の課題解決に役立つことがプライオリティは高いが、世界でどれだけ売り込めるかという視点も早い段階から考える必要がある。

## 標準化戦略WG関連

- ◆ 各標準化団体が立ち位置を見直し始めている中で、それぞれがどこに向かっていこうとしているのかをしっかりと見ておくべき。
- ◆ 標準化が自己目的化してはいけない一方で、モノができてから標準化とじっくり構えていたのでは、後手に回ってしまう。どの国と組むべきかなど戦略性が非常に重要となる。
- ◆ 標準化においてオープンソースの重要性が大きくなってきており、標準化人材育成にもそういった視点が必要。
- ◆ 標準化人材も、どのようなバックグラウンドの人が活躍できるのかなどロールモデルを示すと若手も入りやすくなるのではないか。